

第67回滋人教大会レポート  
第2分科会 人権尊重のまちづくり  
② とともに生きるまちづくり

「だれもが孤独にならないために」

NPO法人<sup>ていく</sup>Take-<sup>りえぞん</sup>Liaison 北居理恵

1. 湖北子ども食堂「Liaison」の運営から

2016年より月1回行っている子ども食堂は今月で第95回を迎えることとなり、100回目が目の前に見えてきました。現在の参加者は、子どもがおよそ40～50人、おとながスタッフと保護者でおよそ20～30人になり、食事はいつも80食を用意しています。私たちがめざしているのは、「名前呼び合える関係づくり」を普段から行うことで子どももおとなも支え合えるまちづくりに貢献することです。月1回とはいえ、継続していくと「絆」は生まれてくるものなのだなど実感することが時々あります。

とにかく命を守りたい

「子ども食堂」を始めるきっかけになった事柄の一つは、当時大阪府寝屋川市で起きた「中一男女殺害事件」です。毎日のように深夜徘徊をしていたという2人を地域で守ることができなかったことへのおなしさと、私自身も地域において何もしていないではないかという無力さに気づいたからです。しかし普段から顔と名前がわかる関係でないと、いざというときに助けなど求められるはずもなく、知らないだれかに甘えるなんて子どもでも大人でもできないことだから、まずはそのためにできることからやってみようと思ったのです。

おとなが子どもの名前を覚え、声をかける

とはいえ、40人余り来る子どもの名前を覚えるのは簡単なことではなく、工夫がいります。一つは、受付で書いてくれた名前を必ず声に出して読むようにし、一日一回は名前を呼んで言葉を交わす努力をしています。また、地域からボランティアスタッフとして調理や子ども対応を手伝ってくださっている方々にも覚えていただけるように、配膳トレーにもフリガナ付きで名前カードを置き、トレーを手渡すときに名前と顔を覚えていただき声をかけてもらえるようにしています。いま、学校帰りの子どもたちが田んぼを挟んだ遠くから手を振って私の名前を呼んでくれるたびに、これだ、これをみんなで作っていききたいのだと原点に戻ります。

ただ笑える関係を心の灯に

ここ数年、若い人たちが自分で命を絶ってしまう報道が相次ぎました。「子ども食堂」ですごした時間は、古い友との屈託のない時間で、それは社会に出たときに「ただ笑えるだけの、何のしがらみもない関係」として心に残したいと思うのです。大学や会社や家庭でも

ない、現在の自分の立ち位置などどうだっていい関係が心のどこかにあれば、それが灯となって、少なくとも最悪の選択をしなくて済むかもしれないと、私は本気で思っています。いま「子ども食堂」に来て、いっしょに「いただきます」と手を合わせる小中学生の姿を見るたびに、ああこの子たち全員がいきいきと人生を生き抜いてくれますようにと願います。

子どもたちから贈られた言葉 「これからもリエゾンを大切にしていきます。」

これは、1周年を迎えたときに子どもたちからもらった寄せ書きの真ん中に書かれていた言葉で、こちらがどんな思いで開いているかを子どもたちなりに感じてくれているんだなと実感したのを覚えています。きっと一つの効果を成しているのではないかと思っているのが、月に一回発行している『Liaison 通信』です。A4 サイズ一枚物のプリントで、毎月地域の約50軒のお家のポストに入れているのと、自治会での回覧板に乗せていただいているのと、SNSで発信しています。ももとは、地域の方々にご報告をし、ご理解をいただくためのものでしたが、「子どもが毎月この通信を楽しみに待っています。」といった保護者さんの言葉を聴き、子どもたちにも言葉が届いているんだなと感じました。これから先、10年後20年後の地域を担う子どもたちと思いを共有できたら、未来もきっと素敵なコミュニティが作られていくのではないかと密かに期待します。

## 2. 「コミュニティカフェ Liaison」より

「元気でいられるのはここのおかげ。ひとりで家に居ても寝てるだけだし・・・」  
「ああ楽しかった。これでまた一週間がんばれる。」

これは、現在毎週土曜日か日曜日の午後に開いているコミュニティカフェにおいて、「健康マージャン」や「水彩画を楽しむ会」に来られている方々の言葉です。ひとり暮らしのご高齢者さまが、だれとも話さずに毎日をすごされたり、楽しみのない日々で心を閉ざしていかれたりすることのないよう、人生の最後まで心ときめく時間を持ってもらいたくて始めました。米原市の「地域お茶の間創造事業」の一つとして補助金をいただきながら、お客さまからのご飲食代や参加費はすべて「子ども食堂」等への支援金として『みんなの未来ボトル』に募金形式で入れていただいています。

学校や職場に行きづらくても・・・

何らかの理由で、学校に行きづらくなったり職場に出づらくなったりする場合があります。しかし行きづらくなったからといって、毎日が孤独なものになったり、人生に絶望したりするのは、この世に同じく生を受けたにもかかわらず悲しすぎる事だと思のです。コミュニティカフェは、家や学校や職場以外の、「第三の居場所」あるいは「最初の一步」として使っていただくこともあります。親子でまったりすごされたり、ただピアノを弾いたりスケッチブックに向かったり・・・。「～でなければならぬ。」から解き放たれ、心が喜ぶ時間をもつことで、自分の存在を肯定し、心が元気になるきっかけにしたいと思います。これからも、小さな活動ですが、“だれもが孤独にならないために” 存在し続けていきたいと思います。

がくねん わく こ  
学年の枠を超え

とも たわぶ じかん きょうつう たからもの  
ふるさとで共に戯れた時間はずっと共通の宝物

～ 湖北子ども食堂「Liaison」第88回（4/12）のご報告 ～



また新しい一年が始まりました。学年が1つ上がった子どもたちと、“どんなクラスだった？”「まあまあやった。」みたいな会話を楽しみながら、どことなく新鮮な空気が流れる子ども食堂でした。なんだか急にお兄さんお姉さんになった感じがしたり、しっかりした言葉にびっくりしたりもしました。



『ホットドッグ』はなんと初めてのメニューでした。

80本用意しました。「ほうれん草」と「自家製切り干し大根」をサラダにしたものと、薄焼き玉子、ウィンナーでした。「これ、めっちゃ美味しいです。」ってわざわざ言いに来てくれる可愛い子どもたち続出で



とってもうれしかったです。ご協力くださいましたみなさま、感謝申し上げます(\*^-\*)♡♡♡



小2女子と、小6男子のシーソー！あれれ？ なんか不思議だぞ。

まずは窓辺で宿題をやる子どもたち。えらいな☆



小学生も中学生も大人もいっしょになって時をすごす

「子ども食堂」。毎月のこのふれあいが、同じ地域に住む者どうしの心の絆をきっと結んでくれるものと思います。



次回は、5月10日(水) に行います。16:30～19:00

みんなで『モルック体験会』

地域のご高齢者さまの会「長生会」さまに教えていただきながらチーム対抗で楽しみたいと思います。大人のみなさまもぜひご参加くださいね。

なお6月は特別企画のため、6月3日(土)16:30～の予定です。



ながさわのうそんひろば  
長沢農村広場に  
だいいゅうごう  
大集合!!

次回のメニューは  
ポークハヤシライス  
などの予定

この事業は『赤い羽根共同募金 福祉基金』の助成対象に採択されています。

発行：NPO 法人 Take-Liaison (ていくりえぞん)

〈連絡先〉 [take-liaison@nike.eonet.ne.jp](mailto:take-liaison@nike.eonet.ne.jp) 080-2448-4355

公式 LINE に友だち追加をお願いします

お問い合わせや諸連絡もいただけます→

